

# 正恩寺報

平成 20 年 9 月

## 「深みの次元」

浄土真宗の根本は言うまでもなく、弥陀の本願を信じると言うことです。弥陀の本願を信じると言うことは、南無阿弥陀仏の名号を信じ、それを称えるという、そのことを他にして何も無いわけです。

「私は信じておりますけれど、称えません」と言うことは信ではないのです。それは『歎異抄』の一番先頭にある言葉の中に、既に言い尽くされております。「弥陀の誓願不思議にたすけられまいらせて、往生をばとくるなりと信じて念仏申さんとおもひたつところのおこるとき、すなはち撰取不捨の利益にあづけしめたまふなり」。私を救うのは、弥陀の本願だけだと言うことを深く信じる。そして、その本願の名前である南無阿弥陀仏を称えようと思う心が起こったその時に、もう仏の撰取の中につつまれる。この世で仏の救いの中に入る現生不退ということが浄土真宗の根本です。

成仏と言うものは未来です。極樂に生まれると言う成仏は私の死ぬ時ですが、仏の撰取の光につつまれるのは、念仏申そうと思いつ心が起こったその瞬間です。この瞬間は時間を越えた瞬間です。時間空間を突破するといふ仕方で、念仏申さんと思いつ心が起こった。その心は私の中に起こるのだけれども、しかも私の心ではないのです。仏の心が私の心に入ってきた時に、私の心なんというものはもう破られる。時間空間と言うものは突破される。だから救われると言うことが起こるのです。私の心の中で救われたと思う事ではないのです。救われたと思うのは、それは凡夫の心であって、そんな心はどれだけ起こったって救われはしない。念仏申さんと思いつ心が起こる時ということとは、仏の心が私の中に入ってくる、そして私の心と仏心とが一つになる。その時のことを言います。その時は、時間のどこにも場所をもたない時です。

今日の宗教の可能性(大峯 顕)より

## 秋季彼岸会

### 法要

九月二十三日

(火祝日)

二時

「正信偈」

唱和

三時

「法話」

本願寺 勸学

内藤知康 師

ご家族お揃いでお参りください。  
一人ひとりが勤めてくださる彼岸会法要です。

正恩会  
正恩寺

例年通り秋季法要の準備、掃除を

九月二十一日(日)朝九時からさせていただきます。

お時間のある方、ご協力お願い致します。